

第65回全日本特別支援教育連盟全国大会新潟大会
第60回全日本特別支援教育連盟関東甲信越地区特別支援教育研究協議会新潟大会
第3分科会 通級による指導(難聴学級)

「ことばの拡充を図る指導 ～おしゃべりを活用して～」

東京都江戸川区立第六葛西小学校 難聴通級指導学級(通称:きこえの教室)

指導教諭 星川 則子

1 はじめに

江戸川区立第六葛西小学校



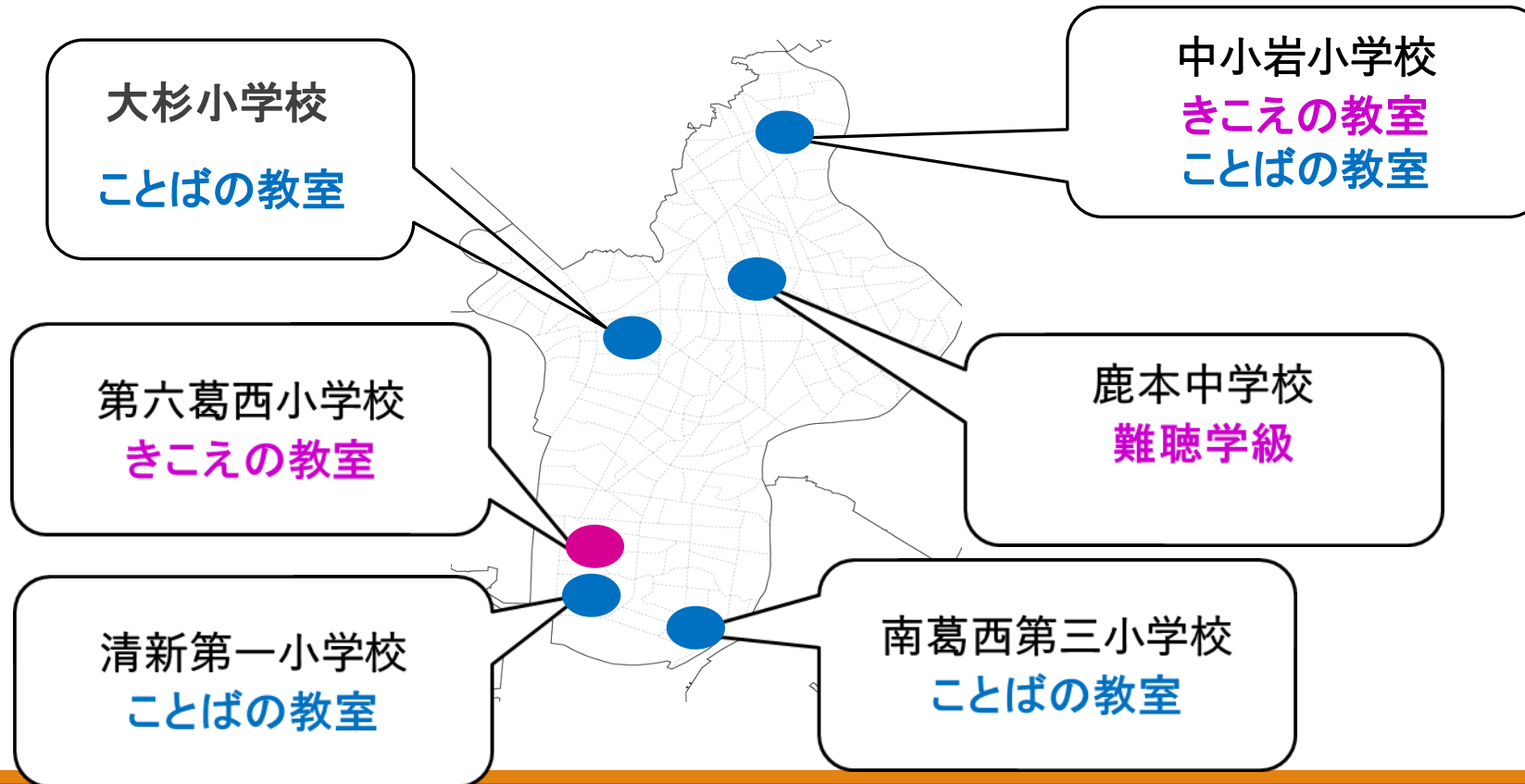
全校児童 644名
(令和8年8月28日現在)

学級数 20学級



1 はじめに

・江戸川区内 きこえとことばの教室



1 はじめに

・第六葛西小学校 きこえの教室

昭和55年度(1980年度) 開級

現在 児童数 3名(校内通級 3名)

担当者数 1名

指導形態 通級

(週1回2単位時間・週3回3単位時間・週4回4単位時間)

指導内容 自立活動

2 きこえの教室の指導方針

1 コミュニケーション

2 聴覚学習

3 言語学習

4 発音指導

5 聴覚障害について学ぶ



(1) 語彙指導

(2) 構文指導

(3) 読解指導

3 テーマ設定の理由

① 背景

- ・聴覚に障害のある児童は、情報を得ることが難しいため言語発達や社会性の獲得等で困難を示すことがある。
- ・小学校では、教科学習が本格的に始まり、ことばを用いた思考も本格的に始まる。(具体的操作から抽象概念へ)

② 指導方針

- ・教科指導を理解するための言語力を育てる。
- ➡日常的な会話(おしゃべり)を活用し、ことばの拡充を図る。
- ➡系統立てた(トピックス)指導を行い、ことばの拡充を図る。

4 児童の実態

○ 3年生

○

○

○

○

○

個人情報のため当日お示しします。

4 児童の実態

オーディオグラム

個人情報のため当日お示しします。

5 実践内容

①指導方針（個別指導計画より抜粋）

- ・おしゃべりを楽しみながら、ことばの拡充を図る
- ・季節の学校行事のことばの拡充を図る

②指導計画

- ・自由会話（日常的な会話を中心とした指導場面）の中で、児童の知らないことばを担当者が考えながらおしゃべりする
- ・児童が適切なことばで表現できなかった時、担当者から適切なことばを提示する
- ・季節や学校行事のことばは、適切な時期にトピックスとして取り上げ、新しいことばや反対語・類似語を児童に提示する

5 実践内容

③具体的な指導と支援

【自由会話】

- ・話題提供は、児童に任せる
- ・児童の発言から関連して、「全く知らないことば・ちょっとわかることば・知っていることば」を考え、児童の話に合わせて、担当者が発言する

5 実践内容

③具体的な指導と支援

具体的には

C「運動会のダンス、がんばったよ」

T「ダンスが終わって、大満足だったんじゃない？」

C「？」

T「ダンスをやりきった感じかな？」

C「？」

5 実践内容

③具体的な指導と支援

T「ダンスが終わって、**やったあ！**という感じかな？」

C「そう、**やったあ**という感じだった」

というやりとりから

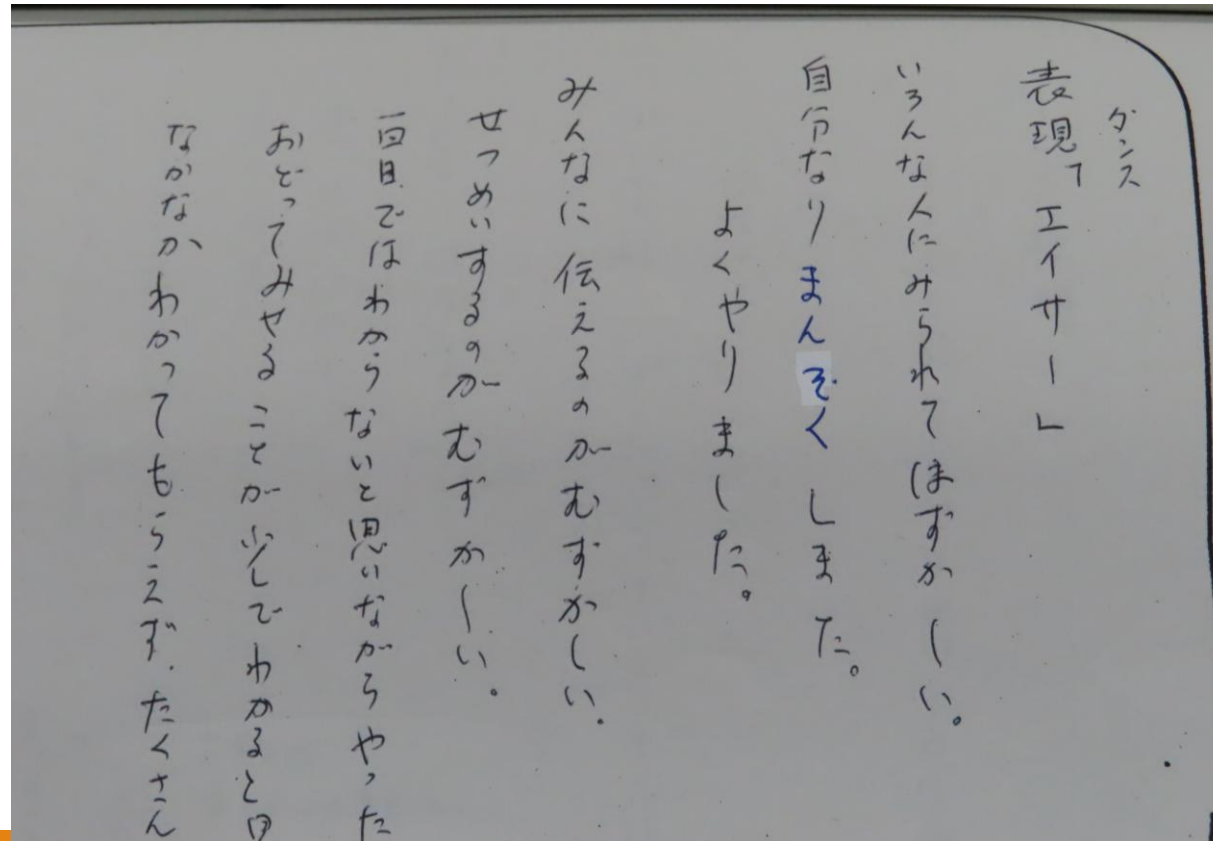
おはなしメモに記入する

記入のルールは、本人の知っていることば ➡ 黒

知らないことば ➡ 青

5 実践内容

③具体的な指導と支援



スポーツフェスティバル
後の自由会話場面

学習ファイルに挟み、
連絡帳と主に保護者に
届ける。

5 実践内容

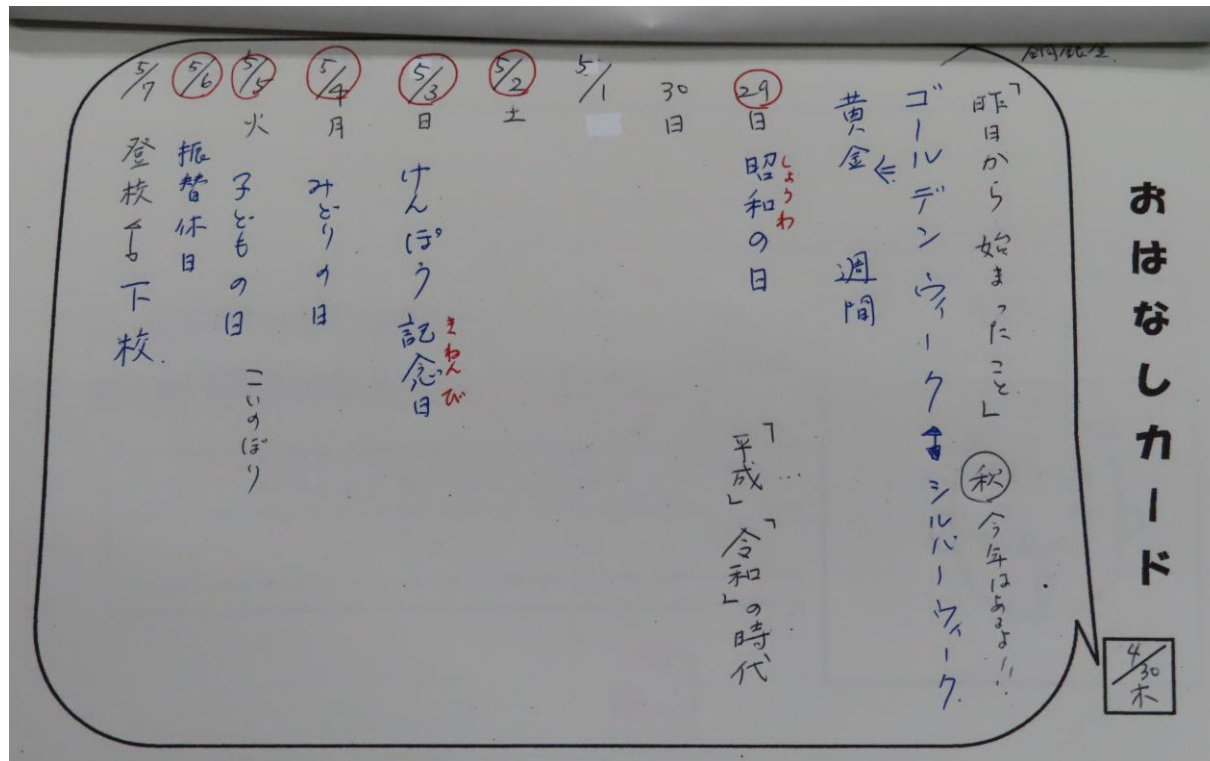
③具体的な指導と支援

【トピックス】

- ・季節や学校行事に関することばを扱うときは、適切な時期に「トピックス」という形で、話題に取り上げる。
- ・本人が知らなかったことばは、本人が触れる機会を多く設けるようにする。

5 実践内容

③具体的な指導と支援



4月30日指導

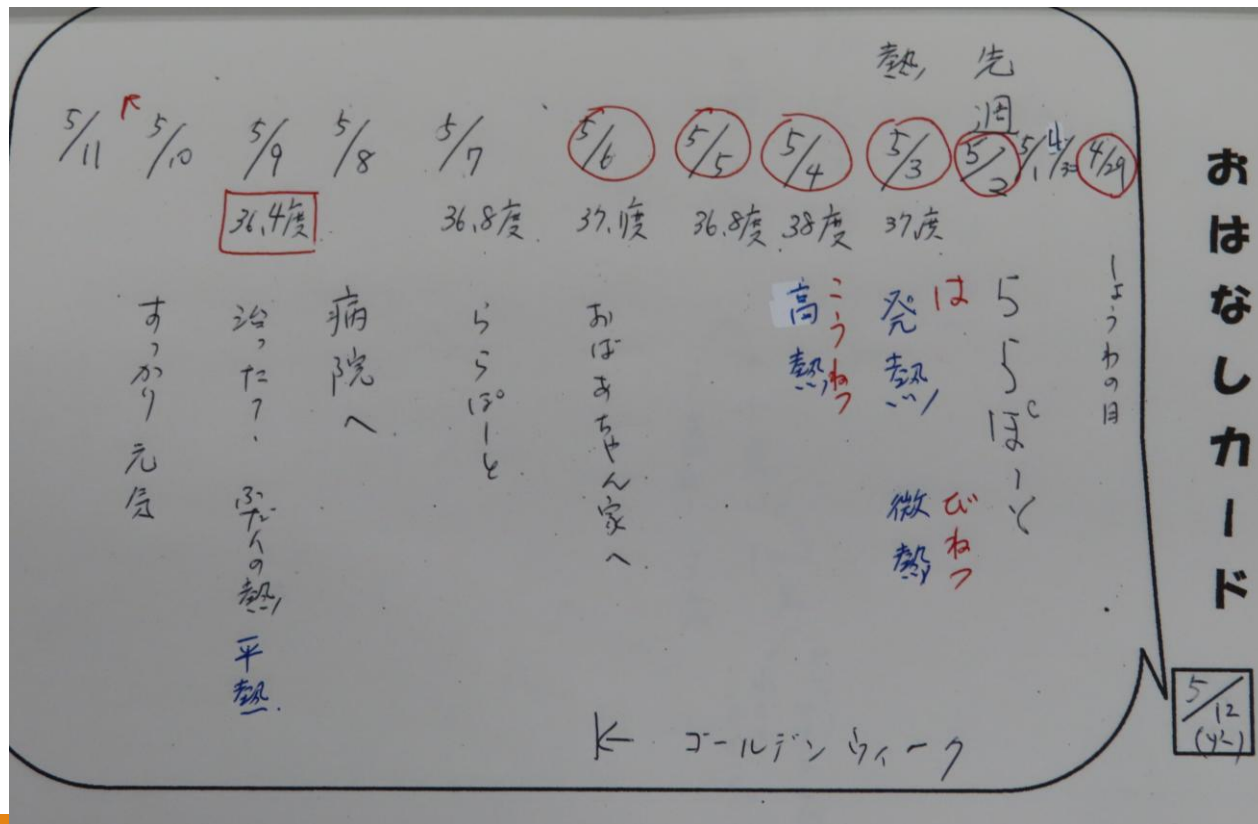
自由会話場面

「トピックス」として

ゴールデンウィークを
取り上げる。

5 実践内容

③具体的な指導と支援



5月12日指導

自由会話場面

「トピックス」として
ゴールデンウィークを
取り上げる。

5 実践内容

④指導のポイント

- ・おしゃべりの中でのことばの指導は、**話の流れを断ち切らない**ようにする。
- ・**新しいことば**が出てきたら、**復唱する関係性**を先に構築する。
- ・どうしても復唱しない場合は、「おはなしメモ」を活用して**本人が読む場面**を設定する。
- ・新しいことばを**自分の声で言うことが大切だ**と考える。

5 実践内容

④指導のポイント

- ・トピックスでは、年間で扱うテーマ(教材)を見通しておく。
- ・「旬」に合わせて、そのことばを扱うことが大切なので、6年間で身につくように考えている。
- ・ニュース等で取り上げれることば、予め「ニュースでもそろそろ言うかもね？」と事前に示し、自ら情報をとらえる経験をするように促す。
- ・トピックスとして扱える期間を把握し、その期間に複数回示せるようにする。

5 実践内容

⑤家庭との連携

- ・連絡帳と学習ファイルの共有
- ・学習ファイルの記入ルールを予め説明し、青い字で書かれていることばについては、家庭でも触れてもらうようする。
- ・季節のことばは、家庭でも時期をみて話題に取り上げてもらうことで、ことばの学習の時に本人が「これ知ってる！」と生き生きと学習できることを伝えている。

5 実践内容

⑤在籍学級との連携

- ・連絡帳と学習ファイルの共有
 - ・学校行事は、担当者が練習に参加したり、担任から情報を得る。
 - ・担任から得た情報をもとに、きこえの教室の自由会話で話題に取り上げ、語彙の確認を進める。
- ➡例：スポーツフェスティバルの演目の確認や児童の役割の把握

6 成果と課題

(1) 成果

自由会話を活用することで

-  リラックスした中で、多くの語彙に触れる機会があった
-  児童が新しいことばに関心を示した
-  「おはなしメモ」を活用することで、家庭でも新しいことばの触れる機会を設けることができた【家庭の協力】

6 成果と課題

(1) 成果

児童が自ら語彙を拡げていくためには



楽しみながらことばに触れる機会を
十分に保障する

6 成果と課題

(2) 課題

自由会話を活用することは



児童の発言内容に左右される



偶然性の学習になりがちのため、効率的ではない

6 成果と課題

(2) 課題

【担当者**が**】

💡 児童の**発達段階**に応じた語彙の理解

💡 **状況に応じた**語彙の提示



的確に行う

ご清聴 ありがとうございます！

最後までご覧いただき、
ありがとうございます！